

2017年度 小林ゼミ 演習I 年度末アンケート

<1>

【必】(後期のゼミで)グループ発表のなかの「疑問点・論点」の討論の中で、もっとも印象に残ったテーマはどれか。その「疑問点・論点」の要旨と、あなたが印象に残っている理由とを書きなさい。(300字程度)

*後期のゼミの「疑問点・論点」は、「ゼミのひろば」に掲示されている。

一番印象に残っている疑問点・論点は第4章の「日本では家計部門の需要が一度として低迷を脱しえなかった。家計部門の需要の低さの最大の原因は所得の減少にある。とあるが、これに大きく影響を与えたものとして、構造改改革の思想があげられる。どうしてこのような思想が唱えられ、広く世間に流布していったのだろうか。」です。今まで、「～にならないようにするためにはどうすればいいか」のような議題が多かったが、この議題はなぜそうなったかを論点としているので今までと違って面白かったです。またそれぞれのグループで出た意見で、企業が倒産しないようにしたからという考えと市場競争を重視したからという考えで2対2で別れたというのも面白いなと思いました。

11月2日にD班で行った、景気回復を実感できていない中小企業や製造業の人々が、景気がいいと感じるためにはどうしたらよいのだろうかという疑問点の回。

安倍政権になってから、景気が良くなったという言葉が安倍総理自身や、メディアでもよく耳にするが、中小企業や製造業同様、私自身でも景気が良くなったと感ずることができなかった。なのでこの疑問点については身近に感じた。ただ数値が上がったから、だけではなく目に見える成果が一部の企業のみならず、誰もが実感できることが必要なのだと私はこの章を通して改めて感ずることができた。

山家悠紀夫『景気とは何だろうか』の第3章 戦後日本の景気循環の疑問点論点が印象に残っています。この疑問点論点は先生もおっしゃっていましたが、本書からは少し離れたテーマだった気がします。しかしほかのテーマと違い著者が本書ふれていることに直接的に議論するのではなく、バブル景気という異常な好景気、その反動不況をもとに将来の起こりうるかもしれない東京オリンピック後の反動不況への対策を考えることで見事に学んだことをアウトプットが出来るような気がしました。事実、各班の意見も具体性を帯びたものになっている気がします。

印象に残ったテーマ: 景気はなぜ波を打つか

疑問点・論点の要旨: 市場経済の持つ本質からしてこのような景気の波は簡単には無くならない、ではどうすればいいのか。

根本的な問題に対してそれをどのような方法で無くすのかという考え方ではなく、その問題と私たちは今後どうやって付き合っていけばいいのかという問題提起にしているから。

12月14日 Cグループの「構造改革によって国民の将来不安は軽減されるのか。また、どうすれば国民の利益になるだろうか」。

経済を活性化させるために「改革」として税制の強化を行うと、国民にまず影響してしまうのはやはり税の負担なため、国民の将来不安の軽減にはならないというのが4グループ共通の意見だった。そのため、「改革」によって将来不安を軽減というのはあまり繋がらないと思った。

どうすれば国民の利益になるのかに関しても、多くの国民が直接実感できることは、Bグループの意見で出てきたようなものだと思うが、この場合だとさらに税金が必要であるため、結局は税制の強化を避けられないので難しいと思った。Cグループの案だとすぐに国民の利益にはならないが、負担を増やすようなものでもないなので、この案は納得できた。

第2章「景気を何でとらえるか」の、サービス業全体の生産性向上・業況改善させるには、どのような方法があるか?という疑問点・論点が特に印象に残っています。その理由としては、私はサービス業のバイトをしていて、ここでは社員の方が2人いて、交代で出勤しています。そのため、休みは週に2日あるようですが不定期です。さらにお店に大晦日やお正月休みがなく、またまとまった休みがとりにくい状況です。休みが取りづらかったり、仕事内容も接客業ということで、人との関わりだったり、臨機応変性が求められたりと、とても大変な職業なのだとバイトしていて、思うからです。また、サービス業の賃上げを図る、IT化を図り作業効率を良くすべきだと私も思うので、この疑問は強く印象に残りました。

子供の貧困が自分達の世代で終わるのではなく、次の世代にまで影響を及ぼしている。つまり貧困の連鎖を起こしている。この貧困の連鎖を断ち切るにはどうしたらいいのだろうか。あと、この、貧困の連鎖が起きてしまうのは何故なのだろうか。という疑問点論点に対して印象に残っている。正直今は親が扶養してくれているが独り立ちするようになってから自分が非正規労働者や何かしらの理由で借金を背負いこんでしまったりして貧困の連鎖を生み出してしまうと考えたら身近な問題だなと感じてしまった。なので身近に起きるかもしれないことを疑問点論点で話し合えたのは非常に有意義だったと思ったので、印象に残った。

私が特に印象に残っているのは子ども期の貧困は子どもが成長した後も継続して影響を及ぼしている。なぜこのような連鎖が生まれるのか、断ち切るにはどうすればいいのか。というテーマです。子どもが成長しても十分な教育を受けるとが出来ず、就職の選択ができなくなってしまう。教育で貧富の差が出るのは塾などの学校以外での教育の影響が大きいと思います。また、習い事などでも機会が平等であるべきだと思います。それらの支援を行うことで教育の格差をなくし、就職の選択肢の幅を広げて十分な収入を得ることができるようになると思います。

三年後に迫った2020年のオリンピックによる経済効果は20兆円とも言われている東京オリンピックの後、過去に起こったような反動不況にならないようにするためにはどのような方法があるか。

この論点に対しての各班の答えがそれぞれ違っていてなるほどなと思うことが多かったです。

例えば反動不況にならないようにあらかじめ土地買い占めを防ぐようにするや、消費税を上げておいて消費を抑制したりして経済景気をよくさせすぎないようにしておくという考えがあったり、その他にもオリンピックが終わった後に規制緩和してお金を借りやすくしたり、オリンピックで使った競技場を再利用したり、慎重な金融引き締めを行うなどのアフターケアの考えがあったりしてそれぞれ面白い考えだなと思いました。

最後の討論ではそれぞれ具体的な内容はという質問が出ていてみんな痛いところを突かれながらもちゃんと答えていたのでいい討論になっていたと思いました。

子供の貧困 第5章の「貧困世帯の子供の低学歴の問題を解決するにはどのような政策を行うべきだろうか」という疑問点・論点。ここではヘッド・スタートという日本ではまだあまり知れ渡ってない言葉も出てきて、興味深かった。どのグループも、幼少期から対策を始めなければならないという意見がでていた。しかし、今成長しつつある子供たちにはどのような対策をすればよいのか、、、。

ただ学校の無償化などの政策をしたとしても、そもそも意欲がないという貧困世帯の子供たちの問題はすぐ解決できるものではないし、この先も考えていかねばならない難しい問題であると思った。

11月30日のゼミで話し合った、山家悠紀夫の『景気とは何だろうか』第3章戦後日本の景気循環(1)の時の疑問点・論点が印象に残っています。このときの疑問点・論点は、東京オリンピックの後に「バブル景気という好景気からのバブル崩壊、そしてその後の緩やかな景気回復を経て日本経済はようやく振り出しに戻った」という過去に起こった反動不況のようにならないようにするためにはどうすればいいのかというものでした。出た意見が東京オリンピックの前に行う方法と、後に行う方法とで分けることができたのも良かったし、オリンピックに向けて景気が良くなると予想されているが、逆に好景気になりすぎないようにするという意見も面白いと思いました。

2017年10月5日に行われた疑問点・論点。題材“母子家庭の仕事と家事の両立”

議論のテーマとして考えるネタが身近な問題だったという事もあるが、各々の班から様々な意見を出していた事がとても印象的だった。特に、母子家庭で仕事を持つ世帯に金銭的な援助や措置を行うという

意見だけでなく、企業に保育施設を用意させて、働く環境を整えるといった考え方や、出勤時間を変更させて子どもと暮らせる時間を増やすといった考えを各班が主張しており、母子家庭にある問題に対して、根本的に解決できるような解答策がいくつか出ていたこともあり、行われた議論はとても有意義であったと思う。

この問題は新聞やテレビで数多く取り上げられているので、機会があれば忘れずにチェックしたいと思います。

私が最も印象に残ったテーマは山家さんの『景気とは何だろうか』の一章の疑問点論点で一度でもマイナスの波に入ると需要と供給が結びつく所まで下がってしまうがその景気の波とどのように付き合っていけばいいかと言うものです。

なぜこのテーマが印象に残ったのかと言うと、供給が需要を下回っている場合、供給者はその供給能力がゆるす限り増加させ、超過需要を吸収し用とするが、供給が需要を上回った場合は供給を減少させていく、という市場経済の本質をこの章で読み、バブル崩壊やリーマンショックなどの恐慌が起こる原理を知ることができたため。

また、結論としてでたのが供給量を減らし、景気の波を緩やかにするというものになったのも印象に残った。

「第2章景気を何でとらえるか」の論点だった「サービス業全体の生産性向上・業況改善の策」についてです。この論点は自分や両親も現在サービス業に勤めていることもあり身近な問題でしたし、各班が労働環境の改善、賃金の上昇、設備への投資、技術・サービス自体のさらなる向上など様々な異なる意見を挙げていて面白かったです。自分の班でもかなり頭を悩ませた記憶があり、とても難しい問題ですが日本のこれからの成長のためには避けて通れない問題でもあると思うので、実際にこの問題の解決が図られるといいなと思います。

第3章の戦後日本の景気循環(1)の「2020年の東京オリンピックによる経済効果は20兆円と言われており、東京オリンピックのあと過去に起こったような反動不況にならないようにするためにはどのような方法があるか」の疑問点・論点が印象的だった。これから自分たちが直面するかもしれない不況に対して、どう防ぐべきなのかどう対処すべきなのか考える機会となったからである。増設し過ぎて、オリンピックが終わってしまえばただの廃墟のようなことを避けるためにも、過剰な設備投資は控えて、既存の設備を有効活用すべきだと思った。また、消費行動を抑えたり建設や予算の無駄を省いて、オリンピック後の見通しを立てておくことが必要だと実感した。

山家悠紀夫の『景気とは何だろうか』の第3章の東京オリンピック後の反動不況についての疑問点論点が印象に残っている。理由として、最初の東京オリンピック後の不況があったように、2020年に行われるオリンピック後もおそらく反動があるだろうからそれをいかにして和らげてあげるか考えるタイムリーな議論を行えたため。

<2> ゼミの中で、小林(先生)が話した解説や指摘や補足説明などで、もっとも印象に残っていることは？

レジメ発表、討論が終わった後の補足がいつもわかりやすいです。

11月30日にB班で行った際の補足説明。私が疑問点論点を担当し、本章と主旨がかなり離れていたもので、かなり助かりました。

すみません、はっきりとは覚えていないのですが内部留保の話が自分にはずっと頭に入ってきたというか納得がいきました。
夏の合宿の時のパンを売る少年の話
合宿の前の集まりで、先生が新聞記事で示した10歳の子どもがパンを売り歩くという話が実際の現代の日本の状況なのかと思い、とても衝撃的で印象に残っています。
証券化について
下町ロケットをテーマにした際の資金繰りについての説明が印象に残りました。銀行とのやりとりや、貸し渋りなど、あまり馴染みのないことだったので面白かったです。
リカレント教育について
内部留保のことで、今現在でもこれは大きな問題になっていると補足説明したこと。
合宿の時に「リカレント教育」というものがあると教えていただいたことが印象に残っています。
夏の合宿で解説が行われた“リカレント教育”。初めて知った知識だったという事と後期のゼミ活動の討論にしばしば用いられていた機会が多く、とても印象的だったからです。
景気の波の話で供給を減らし、波を緩やかにするのが本来望ましいという解説をした時。
何度か話されていますが、数%にしか満たない金融の業界がその他の経済、社会全体を動かしてしまう現在の構造についてです。細かな数字の動きが実際に働く多くの人に影響を及ぼすことははたして良いことなのか、人が生きやすくなるために作った仕組みに今は人が振り回されているような今の経済・社会について考えさせられました。
リカレント教育について。初めてこの制度を知り、日本でも導入すればいいのにと考えた。
スウェーデン・パラドックスで若年層向けの雇用訓練プログラムや、保障など海外の労働市場政策を知れたため。

<3> 後期のゼミで出てきた(経済)用語のうちで、今でもわからない用語は？
ベーシックインカム
ベーシックインカムです。最後の授業の疑問点の話し合いでC班が挙げており、グループ内でどんなことなのか聞いたがいまいち分らなかった。
ゼミの用語解説で出てきてわからないものは自分でも調べてみたりするのでわからないものは特にないです。ただ最初のほうのものは忘れてしまっているかも、。
均衡財政主義
レバレッジが今でも良くわからないです。
レバレッジ
潜在成長率
中間財
公定歩合
4章で取り上げられていた「構造改革」についてまだ自分がきちんと理解しきれていないと感じます。
第5章で出てきた骨太の方針が、どのような方針なのかあまり理解できなかった。
ベーシックインカム

<4>
【必】小林ゼミの特徴について、ほかの学生にアピールするとしたら、どのように言いますか？(50字程度で)
例1) ～～ができるようになる。例2) ～～がおもしろい。
前に出て発表することに慣れる
意見交換などほかの人の意見聞く機会が得られる
決して他人事ではない、身近な経済の問題について知り、考えることができる。
個性のたくさんある生徒が集まるので、いろいろな意見が聞けて面白い。
先生との距離が近い気がします。
高校時の担任のような公私ともに相談しやすい距離感で接してくださいました。
ほかのゼミよりもたくさん社会見学(工場見学)を行っていて楽しい。
グループで議論するため、自分自身では思いつかなかった意見を聞ける。さらに他のグループの意見も聞けるため、一つの議題で様々な答えが出てきておもしろい。
社会に出て必要になる、資料作成や人前で発表すること、グループディスカッションに慣れてくる。
まず、経済用語の基本的なところから説明や、自分達で調べる活動があるのでとてもわかりやすく、経済に関する教科書を少しずつ理解できるようになる
人の前に出て発表するのに緊張しないでできるようになる。
グループの人と意見を出し合ったり、他の人の意見を聞いて深く理解できるようになる。

4人グループの中で役割分担を決めてそれを毎回交換して発表するのでみんながみんな同じように発表のスキルアップができるようになっていっているのがいい。

過去に起きた出来事から現在抱えている問題まで幅広くやります。ただその名前だけ知っているのではなく、どうしてそうなったのか、原因は？など詳しく知ることができます。

発表の準備や、話し合いなどで班員とのコミュニケーションがとれる機会が多いところが良いところですよ。

基本的にグループワークで発表を行うので、生徒同士の仲が良くなることもある。

レジュメの書き方が身につく。

グループごとに別れて疑問点や論点を話し合うことで思考力を育むだけでなく、コミュニケーション能力の上昇にも繋がる。

自分で様々な問題について考え仲間と話し合うことで経済について理解を深め、発表を通じて人前で話すことや資料でまとめる力など社会に必要な能力を身に付けることができる。

景気のことや、現在の雇用の実態、子どもの貧困など幅広い分野の問題を見つめるきっかけになる。討論して意見を出し合うので新たな発見をすることができるし、みんなの前で発表することに慣れることができる。

このゼミに入ることによって自分の主張・他グループ意見に対しての疑問点等を考える力が身につきます。

<5> 【必】来年度の「My Profile」(自己紹介)に入りたい項目は？(例)あなたのストレス解消法は？

休日にしていることは？

自分のことを漢字一字で表すと・・・？

かっこいいと思う経済用語は？

休日は何をしてる？

生まれ変わったら何になりたいか

あなたの好きなテレビ番組は？

何故駒澤大学を選んだか？

今一番欲しいものは？

普段お金を何に使ってるか？

趣味はなにか？

みんなにおすすめしたい観光スポットは？

好きなお菓子

来世では何になりたいか？

好きな動物は何ですか？

休日の過ごし方

一生のうちに挑戦したいこと。

あなたの地元の自慢は？

<6> 来年度の小林ゼミ(演習I)の運営について、改善したい点は？

教室をもう少し早く開けて頂ければ幸いです。

グループでの話し合いが基本のゼミであるので、話し合いがしやすい環境で行ったほうが良いと思う。プロジェクターにレジュメ等を写す、という点を考慮すると難しいかもしれないが、パソコンを使うことがほとんどないのでパソコンの教室でなくてもいいのかなと思ったりもしました。

ゼミは生徒同士が話し合うことを大事にしてるのはすごくいいと思いました。けれど、ゼミの最後に先生の意見をもっと聞く時間があってもいいのかなと思いました。

それぞれのグループが意見を出し合った後に、さらにそのことについて議論する時間がもう少しあればいいかなと思う。

先輩、後輩との交流がもう少しあっても良いのかなと思います。

疑問点論点の話し合いの結果が出た後とにその結果に対しての質問などがあるがそこまでたどり着くのに時間が足りずゼミの時間が終わってしまうことがあるので、最後までできるようにする

もっと意見を積極的に出せるようにしたいです。

毎回いつものように発表を進めると、疑問点、論点にかかる時間が短く思う。話し合いの時間や考える時間がもっとあればいいかなと思う。

席がほぼ同じ場所だったことが不満でした。毎週変えるならきちんと決めた方が良くと思います。

教場にきてからどのグループがどこに座ればいいか分からない時があるので、前のゼミの時に決めたりすることでスムーズにする。

班やゼミ全体で話し合いをする時間がもっとあっても楽しいと思ったので、1つの大きな論点で週をまたいで話し合ったり、テーマを決めて各班がプレゼンを行うような演習もしてみたいと思いました。

スムーズにいて良かったので特になく思う。

グループでの活動をさらに活発に！